

平成21年度  
能美市地域福祉活動計画

# 評価委員会報告



地域福祉活動推進のマスコット  
のみんちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

## 平成21年度能美市地域福祉活動計画評価委員会報告

開催日時：平成21年3月24日（水）午後7時30分～9時30分

開催場所：辰口健康福祉センター

出席者：田中邦一委員長、新井昌宏副委員長

高塚亮三（地域福祉人づくり委員会委員長）、井上徹（地域福祉ネットワークづくり委員会委員長）、澤田時弘（地域福祉ネットワークづくり委員会副委員長）、喜多泉（地域福祉支えあいのしくみづくり委員会委員長）近藤沙夜里（地域福祉支えあいのしくみづくり委員会副委員長）西川方敏（私たちのボランティアセンターづくり委員会委員長）、南昭憲（私たちのボランティアセンターづくり委員会副委員長）（敬称略）

### 1. 評価の方法

各アクションプラン委員会ごとに作成した評価シートの内容を、出席者全員で確認しあった後、評価委員会委員で確認し、総合評価とした。

①よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！について

・・・かわら版（資料1）

予算執行状況報告（資料2）

②各アクションプラン委員会について

ア 1年目に出された課題について2年目は、どのように取り組んだのか

イ 2年目としてどのような課題が出されたか

ウ 3年目にむけた方向性が出されたか

エ その他

③計画全体の5分の2の年度のまとめと及びアクションプラン推進協議会の今後について

### 2. 報告・広報・周知

①能美市社会福祉協議会会長に評価委員会評価を報告する。

②能美市社会福祉協議会は、能美市社会福祉協議会広報誌・ホームページ等において市民に広く周知する。



実践活動内容（どんな話を話し合い、行ったか）

<p>第6回 会合 (11/6)</p>	<p>1)「福祉の人づくり」のための各活動報告          ①第5回能美市社会福祉大会          ②ともろっさ・能美の意見交換会          ③「地域づくりは人づくり～中学生と手をつな ～ 世代のための認知症講座」          ④その他          2)認知症サポーター養成講座をいかにして広げるかについて… 人会、いきいきサロンなど中心に広める          受講者の意見を、講座の内容に反映させる          3)「ちいきふくしウィーク」での人づくり委員会の取り組みについて          ・実行委員会を立ち上げ、地域交流とワークショップ で開催していく事を検討          4)「福祉の人づくり講座」なるステップアップ講座をどのように考えるかについて…継続協議          5)今後の「人づくり委員会」の方向について</p>
<p>第7回 会合 (12/4)</p>	<p>1)「ちいきふくしウィーク」での人づくり委員会の取り組みについて          ・「つきをきっかけとしたふれあい体 とグループワーク」に決定          ・実行委員会には人づくり委員会も参加、協力することで合意          ・実行委員会の準備会を開き、めて確認、本事項をおさえる。具体的な方向、組 を検討し次回          会議に(案)として提出する          2)認知症サポーター養成講座をいかにして広げるかについて…認知症 ヤラバンメイト作業 からの報告          3)「福祉の人づくり講座」なるステップアップ講座をどのように考えるかについて</p>
<p>第8回 会合 (まなび フェスタ 第1回 実行委 員会) (12/14)</p>	<p>1)地域福祉活動計画について確認          2)能美市「まなびフェスタ2009」の取り組み説明(これまでの取り組みを み上げる)          3)実行委員会委員自己紹介…(他の 委員と調整)          4)役員の選出について…委員長 高 副委員長 明          5)運営…事 (案)を提出          6)その他…まなびフェスタ2010の開催までは、人づくり委員会と福祉分科会実行委員会は共同で開催することを確認</p>
<p>第9回 会合 (まなび フェスタ 第2回 実行委 員会) (1/12)</p>	<p>1)まなびフェスタ2010第4分科会 事 (案)説明          ・グループワークについて…講師 子 の紹介(一 社団法人つながり 地域サポート ウス          「楽生(らっきい)」支援員)          ・参加者募集について…まなびフェスタ2010の参加者募集チラシに掲 する事項          ・係分担について          ・予 について          2)その他…次回実行委員会に 子 に参加してもらう</p>
<p>第10回 会合 (まなび フェスタ 第3回 実行委 員会) (2/9)</p>	<p>「まなびフェスタ2010第4分科会について」          1)助言者、 子 の紹介(一 社団法人つながり 地域サポート ウス「楽生(らっきい)」支援員)          2)当 の進め方について…タイムスケジュールを確認          3)予 の確認          4)係分担の確認…各担当グループで話し合い(もちつき作業 、 、ワーク、メラ )          5)当 までの進め方について</p>
<p>第11回 会合 (まなび フェスタ 第4回 実行委 員会) (2/27)</p>	<p>「まなびフェスタ2010第4分科会について」          1)参加者に伝えたいことについて…伝えたい人、伝えたいこと、なぜ、誰についてを整理          2)参加者名 の確認…市民、ボランティア、施設関係、他          3)グループワークの内容と進め方の確認          4)進行の確認          5)会場の設営図の確認          実行委員会に先立ち、 作業 は を切るなどの 準備を行った</p>
<p>第12回 会合 (まなび フェスタ 第5回 実行委 員会) (3/16)</p>	<p>「まなびフェスタ2010第4分科会について」          1)グループワークからの報告          2)参加者アンケートからの報告          3)実行委員会からの振り返りシートの報告          4)評価について…学びフェスタ全体会での報告を に委員長、副委員長が協議し作成することで          5)その他</p>

アクションプラン委員会	地域福祉人づくり委員会			
<b>目標</b> (5年間)	1. 交流の場への参加者数(ふれあい福祉運動会・ふれあい踊りの夕べ・ボランティアのつどい) 1,800人を3,000人に 2. 認知症サポーター養成講座の開催回数 8回 から 30回に			
<b>★重点項目と目指したいアクションプラン</b>	<b>★認知症サポーター養成講座の開催</b>	<b>★福祉教育の研究会の立ち上げ</b>	<b>★地域へのボランティア・担い手養成出前講座</b>	・地域に暮らす様々な人の思いについてお互いの理解と共生の意識を高める取組み・世代間ふれあい交流の促進・相談事業の展開などの福祉専門職や施設の活用・企業も巻き込んだ団塊の世代の社会参加活動の推進など
<b>どこまで達成できたか(2年目)</b>	1. 認知症サポーター養成講座の開催(サポーター数)⇒16回(726人)	2. 福祉教育の研究会の立ち上げ⇒----	3. 地域へのボランティア・担い手養成出前講座⇒----	4. その他「交流の場」への参加者数⇒1,610人(踊りの夕べは中止まなびフェスタ第4分科会110人)
<p>認知症サポーター養成講座は、地域福祉委員会、公民館、各種団体、市職員、警察、消防、銀行やスーパーなどの地域で活動している人や認知症の方と接する機会のある方に受講していただき、認知症サポーターになっていただきたいが、ただ、受講するのではなく、受講後、認知症の理解には、どのような知識が必要なのか、自分がどのようなことができるかなどを考える機会が必要であり、そのことにより福祉の人づくり、まち(地域)づくりにつながるということを確認した。また、「認知症サポーター養成講座」は、どんな内容とするのか、サポーターとはどんなことかについて協議するため、人づくり委員会でも認知症サポーター養成講座を受講し、認知症キャラバンメイトの方々と連携をはかった。人づくり委員会のアクションプランである認知症サポーター養成講座が、「福祉の人づくり」とどのような関係になるのか協議し、「福祉の人づくり」とは、「人のところに寄り添える人をつくる」こととした。</p> <p>また、認知症キャラバンメイトの方々によるサポーター養成講座の開催回数が増えたことは、認知症サポーター養成講座を受講した人たちが地域で増えたというだけではなく、これまでの取り組みをつなぎ、認知症キャラバンメイトとなった市内福祉施設関係者のゆるやかなネットワークを作ったこと、他の関係機関との連携などをはじめとする、認知症の方を地域で支える包括的なケア体制を構築していくためのひとつのきっかけとなった。</p> <p>さらに今年度は、能美まなびフェスタ2010の第4分科会「誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けたい」を企画し、地域でのいろいろな行事に障がい者や高齢者を含めた誰もが安心して参加することができ、「互いにふれあう機会」を取り入れた行事になるよう、実行委員会を立ち上げ取り組み、モデル事業と提言をおこなった【別紙報告書のとおり】</p> <p>そのほか、「福祉教育の研究会の立ち上げ」「地域へのボランティア・担い手養成出前講座」については協議をすることができなかった。</p>				
<b>今後の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人づくり委員会では、人づくり委員会であげられている各アクションプランについてその目指す方向性を示すこととし、実行については、その協議を進めているボランティアセンターづくり委員会・地域福祉NWづくり委員会・地域福祉ささえあいのしくみづくり委員会との連携をはかることとする。</li> <li>・「さまざまな人がお互いにわけへだてなくふれあうことができる人を増やすためのふれあい福祉事業」について、市内各地で行われるいろいろな集いが『福祉の人づくり』である「人のところに寄り添える人をつくる」という視点をいれ、ふれあい福祉事業集として実行できるよう支援をしていく。</li> </ul>			

### 評価

- ①「認知症サポーター養成講座」については、サポーターが地域で増えることが、福祉の人づくりとどのように関係するかの議論により「人のところに寄り添える人をつくる」ということを導き、H21年度に定義した「ふれあい福祉事業」について、さらに内容を深めた。
- ②「ふれあい福祉事業」を、地域で広げていくためのモデル事業が実行委員会での取り組み、その主旨を、まなびフェスタ2010第4分科会で提言したことは、評価に値する。

## 「住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けたい」

～ふれあいもちつき会で楽しくまなぼっさ！～

代表：高塚亮三(能美市地域福祉活動計画 地域福祉人づくり委員会委員長)

助言者：菊澤幹子(一般社団法人つながり 地域サポートハウス「<sup>らっきい</sup>楽生」支援員)

参加者：110名

目的：以前は、年末には、お正月用のお餅を準備するために、多くの家庭で行われていた餅つきだが、最近はそのような風習が廃れてきている。しかし、お餅大好き、餅つき大好きの方は、大勢いる。そこで、障害のある方も参加して、餅つきを行い、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けるために必要な気遣いやいろいろな支援のあり方を学びあうことを目的に「ふれあい餅つき会」を計画した。



### 第1部 前半 ワークショップ(餅つき、とん汁づくり)

- ① こねただけの餅とついた餅を作り、どちらの餅が、誰もが安全に食べることができる餅か、食べ比べてみた。
- ② 餅をつく際に長いもを入れてみた。長いもの入った餅と長いもの入らない餅のどちらの餅が、安全に食べることができる餅が比べてみた。
- ② 通常通りにとん汁を作ったが、高齢者にはゴボウや人参が硬く当たり、コンニャクが食べにくいことが判明し、急遽、要望に答えて、高齢者用のとん汁として、野菜を細かく刻み、コンニャクを取り除いた。



### 第1部 後半① グループワーク

- 餅つきの体験をし、お餅やとん汁を食べた後、参加者は11グループに分かれて、以下の話題について、議論し、各グループの議論を発表してもらった。

話題①日本文化としての「餅つき」を通して学び直す「地域の絆」

話題②障がい者が楽しむための支援のあり方(安心・安全に楽しめる)

話題③一人ひとりが楽しむために、個人個人に合った工夫(お世話・気遣い)

話題④地域に戻って活かせるもの(こころ、援助の方法)

#### ●グループ発表

【話題①】：昔の餅つきを懐かしむ意見が多かった。

家庭での餅つきは今日では難しいので、地域のイベントに取り入れて欲しい。



その際、臼や杵などの餅つきの道具の調達をどうするのかなど、餅つきの仕方を知らない人が増えているので、餅つきの指導者が必要である。

話題②：障がい者が楽しむためには、指導者が必要である。

障がい者もそうでない方も共に楽しむためには、日頃からのつながり、理解、信頼関係が必要である。

安心・安全に気配りをして取り組んでも、計画段階では気がつかない、やってみて気づくことがある。気づいたらすぐに対応できる体制が必要である。

障がいのある人をひとまとめにして、対応しようとしてもダメだ。一人ひとりの課題を理解し、個別対応が必要である。

話題③：餅つきの体験をしたい人にみな、体験をさせて欲しかった。できれば、認知症の高齢者も餅つきが見たかった。

長いも入りの餅は、餅全体が甘く、固くなりにくいことをはじめて知った。今回、こねただけの餅は、食べる時、硬かった。

歯のない人、嚥下力の弱っている人には、餅を料理ハサミで細かくし、細かくしたものが再び、くっつかないように、とん汁の汁を少量入れた容器に落として、細かくした餅が一つひとつ、くっつかないようにして、食べていただいた。野菜を細かく刻んだとん汁は、美味しく高齢者も喜んで食べていた。

話題④：市、地域の行事に、障がい者も参加できるようにボランティアスタッフが必要である。

認知症の人も障がい者も閉じこもらず、情報を発信する。地域の行事に隣近所の人々と協力して、障がい者に参加の声をかける。

今日、学んだことを公民館行事に取り入れたい。地域の行事に活かすため、材料の量や費用の目安を知りたい。



●最後の報告にグループホームの利用者からも、美味しい餅やとん汁を頂いたことへの感謝のこたばがあった。

**第1部 後半②** 助言者菊澤氏のミニ講演(障がい者一人ひとりにあった支援)

**第2部** (全体会 パネルディスカッション)

● 第4分科会からの報告

テーマは、「誰もが住み慣れた地域で、安心・安全に暮らし続けたい」で、参加人数は110名、その中には、認知症の高齢者が15名、知的障がい者が、15～16名含まれた。身体障がい者も分科会に参加していたが、この方たちは、まなびフェスタへの参加は特に、ハンディにならない方々である。

認知症の人や、知的障がい者は、これまで、まなびフェスタには参加しにくい人たちである。限られた時間でテーマに沿った議論をすることが苦手な人たちである。そのような方にも、餅つきだけではなく、グループワークも含めて、3時間の長丁場を付き合っていた。障がい者に参加していただくことにより、そのような人の存在そのものが、教えてくれるものが、たくさんあることがわかった。

これからが、これまでのまなびフェスタの概念を拡げて、障がい者にもどんどん、参加していただける「能まなびフェスタ」の各分科会であってほしい。

● 提言・まとめ

障がい者の参加を得て、議論するためには、楽しく学ぶ工夫が必要である。活発な議論も必要であるが、楽しみことを通じて、障がい者の生の姿に学ぶことが大切である。

分科会会場の根上学習センター講堂は、障がい者を含めた参加者110名でワークショップを行うには適した広さであった。他方、講堂内では、餅つきができないなどの管理場の制限があった。講堂内で着席されている障がい者やグループホームの利用者にも身近で実際に餅つきをしているところを見学していただきたかったが、外での餅つきとせざるを得なかった。

そのため、移動の関係で、体験・見学が出来たのは、一部の人に限られた。

私たちは、いろいろな集いを企画するときには、当然の配慮をしているはずであるが、これからは、参加していただくいろいろな方々の立場に立って、意識的に視点を変えてみる機会をもつことも大切であるように思う。

また、今後、「福祉のまちづくり」を推進していく上で、公共施設の利用規則の運用を含めて、障がい者もそうでない人も共に集え、楽しみことが気兼ねなく行え、そして、学びあえるスペースを確保するためにも、多くの試行錯誤が必要である。

その際には、同等の議論が難しいからという理由で排除してしまうのではなく、障がい者を目の前にして私たちが議論を行うことは、想像力の限界を補う意味で大事なことである。このまなびフェスタのような、いろいろな方の集う機会では、障がい者もその付き添いの人も含めた大勢の市民の参加者のもとで、全体会が開催できるよう、たとえば、テレビ会議の機能も導入するなど、あらゆる角度からの検討を期待したい。



アクションプラン委員会	地域福祉ネットワークづくり委員会	
★重点項目と目指したいアクションプラン	★地域福祉委員会の設置と重点地区指定	★いきいきサロンボランティア連絡会の立ち上げ  地域福祉活動の重点項目 ・見守りネットワーク活動の充実 ・要援護者支援体制の整備 ・児童の見守り体制の充実 ・防災訓練の実施 ・住民懇談会の開催 ・広報PRを図る
実践活動内容（どんなことを話し合い、行ったか）	第1回 会合 (5/14)	1) 委員紹介 2) 委員長・副委員長の選出 3) 能美市地域福祉活動計画と経過説明(平成20年度評価の確認) 4) 地域福祉委員会の現在の設置状況・・・未設置町会への設置支援、6重点地区の指定 5) いきいきサロンボランティア連絡会立ち上げ、いきいきサロン活動手引書作成・進め方など協議・確認 6) ネットワークづくり委員会年間スケジュールの予定
	第2回 会合 (7/9)	1) 地域福祉委員会設置状況の確認 2) いきいきサロンボランティア連絡会からの報告 ・いきいきサロンの運営状況など情報交換 ・町会内の各種団体がサロンにどのような協力ができるかなど 3) 6重点地区地域福祉委員会の決定について ・重点地区連絡会の開催
	第3回 会合 (9/7)	1) 地域福祉委員会設置状況の確認 2) いきいきサロンボランティア連絡会からの報告 ・いきいきサロンの運営状況など情報交換 ・町会内の各種団体がサロンにどのような協力ができるかなど 3) 6重点地区地域福祉委員会の決定について ・重点地区連絡会の開催
	第4回 会合 (11/10)	1) 報告事項 ① 第2回アクションプラン推進協議会(7/24)の報告 ② いきいきサロン活動の手引書作成にかかる整理シートへの意見 2) いきいきサロン活動の手引書(案)の提示 ・いきいきサロンボランティア連絡会からの原案をNWづくり委員会で協議しまとめた意見を連絡会に戻し、もう1度整理する作業を繰り返して手引書を作成する 3) 能美市地域福祉活動計画2年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について(地域福祉フォーラムについて) ・ちいきふくしウィークについて協議 4) 地域福祉委員会活動ヒント探し講座について
	第5回 会合 (1/7)	1) 報告事項 ① 第4回アクションプラン推進協議会(11/17)の報告 ② 高齢者ふれあい・いきいきサロン研究交流会 ・浜開発町いきいきサロンが参加し事例発表 ・県内他地域の事例報告 ③ 地域福祉委員会活動ヒント探し講座 ・住民流支え合いマップづくりの実践を通しての意見交換 2) 協議 * よろっさ やろっさ つなごっさウィークにおけるNWづくり委員会の企画について ・テーマとして「町会がなぜ、地域福祉について話し合い、考えるのか？」理解し合えるような内容について協議
	第6回 会合 (2/4)	1) 報告事項 ① 第5回アクションプラン推進協議会(1/15)の報告 ② のみチャンネル放映(地域福祉委員会活動について) ・いきいきサロン活動を中心にちいきふくしウィークに繋げる内容 2) 協議 * よろっさ やろっさ つなごっさにおけるNWづくり委員会の企画について ・企画タイトル「町会と福祉の関係とは！」 ・住民流支え合いマップづくり講師(木原孝久講師) ・地域の身近な問題として「独居高齢者のゴミ出し」を取り上げ寸劇にし、それを受けて参加者の活発な意見交換のきっかけとなるよう構成する。
	第7回 会合 (3/16)	1) よろっさ やろっさ つなごっさウィークについて ・参加者アンケート、かわらばんの確認・意見交換 ・NWづくり委員の反省シートの確認・意見交換 2) 平成21年度の取り組みのまとめについて ① 平成20年度評価シートの確認 ② 平成21年度の取り組みのまとめを協議 ・地域福祉委員会未設置町会の設置支援・実情把握(単にかたちにするだけでなくとらわれない方法など検討) ・地域福祉委員会活動手引書作成について(まずは受け入れやすいようにQ&A集の作成など検討) ・重点地区指定方法(委員会としての活動・事業を指定し公募するかたちなど検討) ③ 平成21年度評価委員会への報告の確認

アクションプラン委員会	地域福祉ネットワークづくり委員会	
目標 (5年間)	地域福祉委員会の設置 H23年度までに74町会に設置する。 設置後は、活動の充実をはかって、いきいきサロン連絡会・見守りネットワーク連絡会・地域福祉委員会協議会を立ち上げる。	
★重点項目と 目指したい アクション プラン	☆地域福祉委員会の設置 ☆地域福祉委員会モデル地区指定 ☆地域福祉活動の重点項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りネットワーク活動の充実</li> <li>・要援護者支援体制の整備</li> <li>・児童の見守り体制の充実</li> <li>・防災訓練の実施</li> <li>・住民懇談会の開催</li> <li>・広報PRを計る</li> </ul>	☆いきいきサロンボランティア連絡会の立ち上げ
どこまで 達成 できたか (2年目)	◇地域福祉委員会設置数 (H21年3月1日現在) 54町会／74町会 72% 16地区／16地区 100% 計70地区区域／90地区区域 77%  ◇重点地区地域福祉委員会の指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・6重点地区を指定</li> <li>・重点地区連絡会(2回)と研修会(県外研修会参加)の開催</li> </ul> ◇地域福祉委員会設置推進と設置後の活動充実を図る 町会から選出された、地域福祉推進の核と成り得る方を対象に「地域福祉委員会活動ヒント探し講座」を開催し今後の活動や取り組みの理解を深めた。	◇いきいきサロンボランティア(各地区3名合計9名)が委員となり、いきいきサロンボランティア連絡会を立ち上げる。  ・連絡会は今年度5回開催し、いきいきサロンについて、情報・意見交換を行う。  ・また、連絡会でいきいきサロン活動について協議し、誰もが気軽に行えるような活動手引書を作成した。
今後の課題	①既設置町会の実態を把握し、より一層の活動充実を支援(情報提供など)。 ②重点地区指定について検討(既存または新たな委員会活動・事業を指定し公募するかたちで実践活動を支援するなど)。 ③地域福祉委員会活動について理解を深める講座の継続開催と内容の検討(内容を段階的にするなど)。 ④未設置町会の実情把握及び設置への支援の検討(情報提供、出前講座など)。 ⑤今後、より実践的な地域福祉委員会活動が行えるよう活動手引書の作成を視野に入れ、まずは、受け入れやすいよう「地域福祉委員会」についての質問・疑問を広く町会から吸い上げてQ&A集を作成し各町会に周知する。	①いきいきサロンボランティア連絡会の継続。 ②運営ボランティア研修会の開催に併せていきいきサロンの主な担い手である福祉推進員と民生児童委員の意見交換の機会をつくり地域福祉委員会活動の連携強化に繋げる。 ③いきいきサロンの課題として、男性も参加しやすい内容の工夫や参加していない要援護者への参加支援を検討。
特記	・社会福祉協議会、市と連携しながら行う。 ・多様な立場の方との協働を推進する上で、ネットワークづくり委員会委員構成を検討する。 ・旧来の種々の催しや、自治公民館事業との連携を計り地域福祉活動の更なる充実を図る。	

## 評価

- ①6重点地区地域福祉委員会の連絡会や研修会の開催は、委員会活動への理解を深め、意識を高めることに繋がった。また、「地域福祉委員会活動ヒント探し講座」の開催は、受講者が地域福祉委員会活動の推進役の1人として、多少なりとも意識を持ってもらった感があり、既設置町会にとっては、活動充実に向けてのきっかけづくりの講座となったのではないかと。今後、このような連絡会・研修会、講座の開催内容などを各町会に情報提供し、併せて地域福祉委員会を構成する委員がお互いの活動を理解し合い、連携強化へ支援することが必要であり、課題である。
- ②いきいきサロンボランティア連絡会を立ち上げ、情報・意見交換し、活動手引書を作成したことは、1年目に出された課題への取り組みとして、達成できた。今後も連絡会を継続し協議内容などを各町いきいきサロンに情報提供したり、活動手引書を活用し、運営ボランティアの発掘を支援することが必要であり、課題である。
- ③地域福祉委員会設置数は、2年目として新たに10町会が設置された。今後は未設置町会の実情を把握し、設置への支援や設置への難しさや要因を考慮し、単にかたちにするだけにとらわれない方法なども検討する必要があるのではないかと。

アクションプラン委員会	地域福祉支え合いのしくみづくり委員会			
★重点項目と目指したいアクションプラン	★「支え合いのしくみ」「たすけあい」に関する住民の理解をすすめる	★ファミリー・サポート・センターの運営の企画、実践(運営委員会構築)	★子育てサポーター養成講座や交流の機会をつくる	・「支え合いのしくみ」のモデルとして、子育て支援のしくみファミリー・サポート・センターから取り上げてすすめます。・関係機関との連携をはかる(相談窓口の充実)
実践活動内容(どんなことを話し合い、行ったか)	第1回 会合 (6/18)	1) 委嘱状交付 2) 委員自己紹介 3) 能美市地域福祉活動計画の説明・・・この委員会だけは門戸が広い為、焦点を絞り子育て支援にスポットを当てて取り組んでいく 4) 今後の予定について・・・2ヶ月に1回の開催 充実した委員会が行われるよう課題を持ち帰り検討していく事とする。 次回までの課題 ⇒ ファミサポの開所にあたり様々な声が聞こえる。まずこのシステムについての理解を深めるにはどうしたら良いか		
	第2回 会合 (8/18)	1) 能美市ファミリー・サポート・センター状況報告 2) 前回の課題について・・・地区による協力会員登録数に違いがある。地区別・対象者別等細やかな説明で、なお且つ体験者の生の声を聞かせる必要。システム理解だけではなく、立ち上げの背景も理解してもらうことが必要。数値的なものばかりにとらわれないよう、広く薄くではなく、必要な地域にまず、広げるという発想。 3) 次回までの課題・・・地域に出向いた説明会での必須伝達項目のポイントの整理		
	第3回 会合 (10/2)	1) ファミサポ9月までの状況報告 2) 協議 ①様々な場面で、説明会をしてみたの反応(報告)・・・保育園の祖父参観や老人学級での時間に合わせ出向いてみた。⇒ もっと、小単位、身近な場面での説明の必要性を感じる。ファミサポ理解への温度差 ②第4回能美市社会福祉大会での報告について・・・子育てにスポットを当てていることを前置きする。 住民の意識改革を行い、子育ての援助を求めやすい環境・地域を作り上げたい事を説明すること		
	第4回 会合 (12/4)	1) ファミサポ11月までの状況報告 2) 協議 ①第4回社会福祉大会での報告を終えて・・・実勢に話を聞く機会は本当に大切。団塊の世代の男性陣も少しターゲットにできないか?※ 説明会実施について(実日数12日、延べ回数15回) ②ファミリー・サポート・センター運営委員会について・・・センターの充実・継続を維持するには必要。運営委員会の位置付けを決めてからの検討となるだろう ③ふりかえりシートを利用してアクションプラン★印項目の今年度の達成状		
	第5回 会合 (2/5)	1) ファミサポ1月までの状況報告 2) 協議 ①第1回地域福祉フォーラムでの発表について ・・・10分程度なのでちょっとしたポイントを絞って寸劇をする。こういった時に利用すればいいのか。心身が病んでいる時の利用、リフレッシュでの利用等場面場面連解する。 ②ファミリーサポートセンター運営委員会について ・・・センターの充実・継続を維持するには必要。運営委員会の位置づけは確定していない。		
	第6回 会合 (3/9)	1) ファミサポ1月までの状況報告 2) 地域福祉フォーラム発表用寸劇練習		

アクションプラン委員会	地域福祉支え合いのしくみづくり委員会		
<b>目標</b> (5年間)	1. ファミリー・サポート・センター利用件数 50件に 2. 登録者数 協力会員 50人以上に 依頼会員 50人以上に 3. サポーター養成講座の開催 年1回 4. サポーターフォローアップ研修会及び交流会を年2回		
<b>★重点項目と目指したいアクションプラン</b>	★「支え合いのしくみ」「たすけあい」に関する住民の理解をすすめる	★ファミリー・サポート・センターの運営の企画、実践(運営委員会構築)	★子育てサポーター養成講座や交流の機会をつくる
<b>どこまで達成できたか</b> (1年め)	市内のいろいろな会合に出向き、ファミリー・サポート・センターについて説明した。その際ファミリー・サポート・センターのシステムだけでなく、立ち上げの背景や今の子育ての状況、ファミリー・サポート・センターの必要性についても、話をする事で、かなりの共感を得られたように思う。小さい集まりの中で、間近に顔が見える距離ということが、効果的だった。会場の一人一人の表情が見え、その反応や手ごたえを感じながら説明できた。「たすけあい」の気持ちや「支え合いのしくみ」の目指すところをきちんと理解し、受け止めてくれる人が各会場に必ず何人かいた。少しずつでもいい。確実に本当の理解者が増えていく事が大切だと感じている。  実日数 12日 ・ 延べ回数 15回 (別紙参照)	ファミリー・サポート・センター運営委員会は、センターの充実・継続を維持するには必要である。しかし、その位置づけについては現時点ではまだ調整が必要で、今年度は「運営委員会」立ち上げに至らず、アドバイザーをサポートする協力員3名を選出するに留まった。  (ファミリー・サポート・センター活動状況・ファミサポよりは別紙参照)	協力会員・依頼会員共に講座を受ける機会を設け、互いの顔が見え、これからの意欲につながったし、互いの思いも知る事が出来た。ファミリー・サポート・センターの目的の中で大切なことは、『人と人とのつながり』をやることであり、とても意味のあるものになった。フォローアップ研修会は、4回開催し、中身も充実していた。
<b>今後の課題</b>	これからも継続して、さまざまな団体の会合や町の会合等に出向いて説明の場を持つ必要があると思う。地道に市民の心に訴える活動をしていきたい。将来、子育てに向き合う10代の年齢層に対しても、「子育ては楽しい」というメッセージを送れるような活動を考えていきたい。また、企業に対しても「子育ての大切さ」を理解し、それをサポートする体制づくりを考えてもらえるように働きかけをしていきたい。	アドバイザーを介し、より良いセンターになるよう調整を早急に図り、運営委員会を立ち上げられるようすすめる。ファミリー・サポート・センターのアドバイザーを補佐し運営の企画実践をスムーズにするために早急にサブリーダーを配置したい。	サポーター養成講座は、毎回必須の項目を入れながら定期的開催をめざし新しい人材を育てる。会員に関してはフォローアップにつながる講座と交流会を開催し意識向上を図る。
<b>特記</b>	この委員会として掲げた数値的目標については、既にその数値を上回っている。数値目標については意識面も含め、見直し・検討の必要がある。支え合いについては、今年度は「子育て」にスポットを当てた。1年過ぎて、徐々に意識の変容が見られ始めたところである。最終的には、あらゆる立場や状況の人たちを含めた『広がりのある支え合い』を目指す中で、今は、まず確実に子育てに関する支え合いの意識定着を目指したい。よって、次年度も、今年度を踏まえて子育てを中心として様々なしくみづくりと意識啓発を推進していくものとする。		

## 評価

- ①「住民の理解」という点では、小さな会合に出向いたことによって、理解者が増えていったことは評価できる。今後も引き続き、進めていってほしい。
- ②「ファミリー・サポート・センターの運営企画、実践(運営委員会の構築)」については、実際に、7月からファミリー・サポート・センターが立ち上がり、目に見えるものとして動き出している。その運営委員会の設置についての理解が得られているが、位置付け等について、調整をさらに進め、住民参加参画でのスムーズな運営がなされるよう期待する。
- ③「交流の機会をつくる」については、依頼・協力会員が一同に解する場を「共助」がともに出会う場として今後も継続、発展させていくことが必要である。

重点項目に掲げた項目については、この1年で取り組み方やその結果については、効果が出ていると思われる。「重点項目」以外についても、次年度以降は少しずつ視野に入れ、広義での「ささえあいのしくみづくり」になることを期待する。

アクションプラン委員会	私たちのボランティアセンターづくり委員会	
★重点項目と目指したいアクションプラン	★ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の構築 文中ではボランティア・コミュニティ活動支援センターをボランティアセンター・ボラセンと表記します。	★ボランティアの活動拠点としての情報システムの構築 ・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成
実践活動内容（どんなことを話し合い、行ったか）	第1回 会合 (5/19)	1) 委員紹介・委嘱状交付 2) 能美市地域福祉活動計画と昨年度の経緯説明 3) 委員長・副委員長の選出 4) 今後の予定について確認 ・昨年度作成したポスターの掲示方法・ボラセン運営委員会の選出団体・ボラセンホームページ構築 ◎毎月第3水曜日(19:30~21:00 冬季は19:00~20:30) 「寺井地区公民館」にての開催を決定
	第2回 会合 (6/17)	1) アクションプラン推進協議会・評価委員会の報告確認と年間スケジュールの確認 2) ボラセン情報発信PRポスターの掲示・貼付依頼先の検討 3) ボラセン運営委員会の選出団体の候補の確認 ・AP委員会と運営委員会との関係性・兼ね合いが課題であり、このAP委員会が運営委員会の生みの親として、運営委員会が軌道に乗るまで同時進行する方向が提示された。 4) ボラセンホームページ構築について検討 ・ボラセンのイメージづくり・・・自由な意見交換。→次回は皆でHPを見ながら検証してみる。
	第3回 会合 (7/15)	1) ボラセン情報発信PRポスターの掲示・貼付依頼先をポスターサイズ別に決定 2) ボラセン運営委員会の選出団体決定(10団体)。AP委員会と運営委員会との関係性を協議 → 次回、ファミリー・サポート・センターの運営委員会の現状を聞いてみることを決定。 3) ボラセンの情報発信ホームページ構築について検討【アドレス取得報告 <a href="http://nomi-vc.net/">http://nomi-vc.net/</a> 】 ・市社協や他のホームページを閲覧し、検証した。ホームページに望むことを意見交換した。
	第4回 会合 (8/19)	1) じっくり話し合える地域福祉フォーラムの開催概要の紹介 →了解 2) 運営委員会のあり方をファミリー・サポート・センターの現状より学んだ。 【連携】支えあいのしくみづくり委員長説明→運営委員会は無く、AP委員が相談会を持ち機能補完。 3) ボラセンホームページの掲載項目について意見交換 →様々な視点で検討。 HPも紙面も大切。でも顔を合わせてつながりが生まれることの大切さも確認した。
	第5回 会合 (9/16)	1) 地域福祉フォーラムの確認 →企画について賛成 2) ボラセンホームページの公開スケジュール 公開しながら変更していく →ホームページ作成作業班を作る。(10/10~以後2回作業) 作業員公募 3) ボラセン運営委員会の役割確認のために、実践体験として、次年度のボラセン事業計画を構築する。 ファミリー・サポート・センターでもAP委員が機能補完している事例を参考に
	第6回 会合 (10/21)	1) ホームページ作業状況報告 →公開報告。登録権限の有無など活用しやすいしくみを構築する。 2) ボラセン運営委員としての役割の検証のため来年度のボラセン事業計画立案 今年度の事業を説明し、次年度のあり方を検討した。 ・基本姿勢として『集める』から『地域へ出向く』<ボラセン周知にもつながる>=出前講座の組み立て 【連携】AP推進協議会長参加。『ボラセン講座はまさに人づくりの機能を持つ。認識してほしい』
	第7回 会合 (11/18)	1) 地域福祉フォーラム「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！」について、当委員会の企画検討 2) ボラセン運営委員としての役割の検証のため来年度のボラセン事業計画立案 ・事業名称を、内容が分かるものに変更 ・『集める』から『地域へ出向く』出前講座を基本とする ・地域の組織・各種団体とタイアップしていく 3) ホームページの活用について、ボランティアグループや受入れ側の募集の利用も可能にしたい。
	第8回 会合 (12/16)	1) 「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！」について、当委員会の企画検討 ◆テーマ「ここからつなごっさ！知ってる？今こそ必要！こんな『ボラセン』」 ・親しめる略称を広める。ボラセンについての市民の希望を聞き、今後活かす形をとる。 ◆講師「西田氏(京都市市民活動総合センター長)」◆会場「寺井地区公民館」◆時間「午後7時~9時」 ◆規模「定員40名」◆形態「お茶・コーヒーをセルフ・作業所ケーキ」◆動員は不要だが母体に周知
	第9回 会合 (1/20)	1) 「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！」について、当委員会の詳細企画検討 ◆詳細なタイムスケジュール決定◆ボラセンについての楽しい語りあいを講師と調整 ◆当プログラム予算の確認◆3/5終了後の当委員会の反省会について◆3/6最終プログラムの勧誘
	第10回 会合 (2/17)	1) 「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！」について、当委員会の最終打合せ ◆タイムスケジュール・担当の決定◆グループワーク内容決定◆目的確認とふりかえりシート 2) ボラセンの概略資料確認(A4両面1枚) 3) 運営委員会の組織・委員選出依頼について(新年度実施の確認)
	第11回 会合 (3/17)	1) 「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク！」の反省 ・当委員会企画について・全体について 2) 本年度の取組みの確認と次年度に向けて

アクションプラン委員会	私たちのボランティアセンターづくり委員会		
<b>目標</b> (5年間)	1. ボランティア登録者数 2, 323人を 4, 900人に 2. ボランティア活動把握数 3, 965人を 6, 200人に 3. ボランティア講座数(延べ) 14講座を 20講座に		
<b>★重点項目と 目指したい アクション プラン</b>	<b>★ボランティア・コミュニティ 活動支援センター運営委員会の 構築</b>  文中ではボランティア・コミュニティ活動支援センターを ボランティアセンター・ボラセンと表記します。	<b>★ボランティアの活動拠点とし ての情報システムの構築</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実</li> <li>・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり</li> <li>・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成</li> </ul>
<b>どこまで 達成 できたか (2年め)</b>	<p>前年度の規約づくりに続き、今年度はボラセンの運営委員会委員の選出団体を協議決定した。</p> <p>次年度より、実際に活動できるよう、運営委員会の役割を明確に示すために、運営委員に成り代わりAP委員が、次年度のボラセン事業の計画立案を実践体験した。運営委員会との関係性を明確にできた。</p>	<p>ボランティアの活動・情報の拠点として</p> <p>①ボラセンの周知のために、ポスター(下部は活動グループ一覧表)を作成し、市内各所に掲示・貼付した。</p> <p>②情報発信・収集のボラセンの独自ホームページを開設した。随時更新を実施し、使いやすいものへ検討協議を重ねている。</p>	<p>上記アクションプランについても、ボラセンの周知がすすみ、活用されることが基本となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実 → マッチングの際の情報や苦情などを次回に反映させる項目を加えた様式を活用した。</li> <li>・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり</li> <li>・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成 → この2点の重要性を理解し、次年度のボラセン事業計画に反映させた。ボラセン講座はまさに「人づくり」であると認識しあい、意識啓発のために地域へ出前することを基本に現した。</li> </ul>
<b>今後の課題</b>	<p>ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会が次年度から、動くことを受けて、運営委員会との連携の持ち方をどのようにしていくかが課題である。</p>	<p>①今後はボラセンの利用状況を把握し、周知・利用促進の対応策を検討していく。</p> <p>②ボランティアを求める側、ボランティアをする側など、多様な視点に沿うような、ホームページのあり方の検討をすすめることが必要。</p> <p>③多くのボランティアグループの情報発信に利用してもらえるよう、活用講座が必要であり、その際には、登録権限などの規定を設けねばならず、検討をすすめたい。</p>	<p>市民自身が活用しやすいボラセンを現していきたい。つなごっさウィークでの意見を検証し、今後のセンターのあり方に活かしていく。語り合う場を創出することが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実について → センターのあり方や人材の配置など運営について検討が必要</li> <li>・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり → センター機能や、事業についての検討が必要</li> <li>・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成 → ニーズに応じた魅力ある講座事業の検討が必要</li> </ul>

### 評価

- ① 市民が運営するボラセンの運営委員会については、1年目の規約作りから、選出母体決定・役割の明確化と、運営委員会がスムーズに始動できるよう、着実に歩みをすすめてきた。今後はさらに、当委員会との連携のあり方を実践しながら構築していくことが必要。
- ② ボランティアの活動拠点として、周知のためのポスター配布(貼付)、情報発信・収集としてのホームページ開設についても、成果を残してきている。今後は多くの市民やボランティアグループに活用してもらえるアイテムとして、ホームページを育てなくてはならない。
- ③ ボラセンに求められていることの意味を集約し、具体化に向けての議論をすすめたい。そのためにも、他団体や委員会とも意見交換の機会を持ち、連携を取りすすめることが重要。
- ④ 地域の課題に対応した事業を組み立てていく為にも大げさでない語り合いの場こそ必要であり、気軽に自由な発想で、意見交換が出来る場づくりの実現に向けた議論を展開・提言していきたい。